

# 「団体交渉報告」

## 平成28年度決算概要について報告がされた後、市バス・地下鉄の課題改善と混雑緩和を要望した。

二〇一七年八月八日(月)天神川三階大会議室で団体交渉が開催された。議題では、平成二十八年度決算概要について報告がされ、自動車運送事業では①一般会計に頼らない「自立した経営」を堅持②一日当たりのお客数が前年比九千六百人の増の三十三万三千人③経常損益は前年度を三億円上回る二十七億円の黒字を確保できたと報告がされた。次に高速鉄道事業では①一日当たりのお客数は、経営健全化計画に掲げた五万人増客目標を二年前倒しで達成②経常損益は十六億円の黒字とされたが、一方で平成二十九年度に一般会計補助金収入が減少し、資金不足比率が二〇%を上回る見込みとされ、安定した経営に向け健全化計画を継続するとし、依然、企業債等残高が三億七千四百億円の増、累積資金不足も三億九千九億円の増と報告がされた。報告を受けた佐田書記長が両事業の功績に触れ「職員が安全の徹底やお客サービスの向上、増収、増客に向けた取り組みを着実に実行してきた成果である。この数年の好転が安全運行に必要な投資を可能にしている。現在、喫緊の課題である混雑緩和に向けた、増車、増員においても経費の確保をお願いする。また、秋の独自要求に向けこれまでの職員の頑張りについて、施策を引き続き求める」とした。続いて、山本保自動車部長が混雑緩和と休日増を要望し、辻井啓典電車部長が烏丸線の混雑対応と肉体的、精神的な疲労の軽減の申し入れを行った。最後に瀬戸高志執行委員長が「市バス、地下鉄の課題改善と今後、提案する独自要求に対して真摯な回答を求めるとして、山本耕治管理者が意見や要望に対し真摯に受け止めて誠意のある回答に努める」として団体交渉が閉会した。



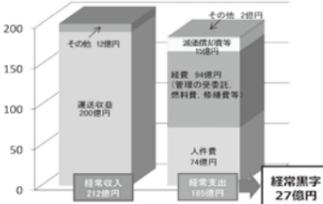
…… 団体交渉に臨んだ京交執行委員 ……

### 自動車運送事業

#### 1 決算概要

- 一般会計に頼らない「自立した経営」を堅持
  - ・ 集客施設へのアクセス強化や路線・ダイヤの充実等により更なるお客の利便性向上を図るなど、「攻めの経営」をより一層推進し、一般会計からの任意補助金に頼らない「自立した経営」を引き続き堅持
- 1日当たりのお客数は、前年度比9千6百人増の33万3千人
  - ・ 定期券ご利用のお客数の増加と伸びとともに、梅小路公園や京都駅八条口への結節強化等により、前年度決算に比べ、3年連続で大幅な増加となる9千6百人の増客を実現した結果、運送収益は前年度決算に比べ、5億4900万円の増収
- 経常損益は、前年度を3億円上回る27億円の黒字を確保
  - ・ お客数の増等により、26年度以降3年連続で「自立した経営」を堅持し、3年間で最大となる黒字額

#### (1) 経常損益の状況



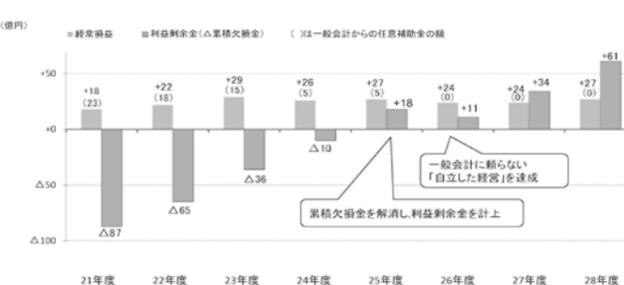
#### (2) 決算の主要数値

	27年度	28年度	差引増△減
在籍車両数	804両	808両	4両
走行キロ数(1日平均)	85.3千km	86.6千km	1.3千km
経常損益	24億円	27億円	3億円
経常損益(うち予定外増減)	34億円	61億円	27億円
経常損益(うち予定外増減)	34億円	34億円	(24億円)
年度末企業債残高	62億円	54億円	△8億円

#### (3) お客数の推移

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
お客種数	311	314	314	321	326	341	353	363
対前年度増加数	-	3	0	7	5	15	12	10

#### (4) 経常損益及び利益剰余金等の推移



### 2 主要事項

#### (1) 路線・ダイヤの充実 (集客施設へのアクセス強化や混雑緩和等)

- 【28年3月実施の新ダイヤ】
  - ア 混雑緩和に向けた主要路線のバス上層のアクセス強化
  - イ 京都鉄道博物館が開業した梅小路公園のアクセス強化
  - エ 京都駅八条口駅前広場整備にあわせて路線・ダイヤの充実
  - ウ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充(右京区南太秦学区等)

- 【28年3月実施の新ダイヤ】
  - ア 混雑緩和に向けた主要路線の運行拡充等(西大路通や東山通を運行する204号、205号、206号の増便等)
  - イ 通学系統の運行充実(立命館大学、京都産業大学、佛光大学関係系統)
  - ウ 早朝・夜間時間帯の運行充実(回送バスの営業化により始発の時刻繰上げ、最終便の時刻繰下げを実施)
  - エ 便利にご利用いただける路線・ダイヤ編成(京都岡崎ループを西京河原町に接続する経路変更など)と乗継利便性の向上等)
  - オ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充(北区桃野学区)

#### (2) 魅力あるバス待ち環境の創出

- ア 周辺地域などにおけるバス停上層の整備(25箇所)
- イ インターネットを活用したバス接近表示器の設置(80箇所)
- ウ 地域の皆様や事業者等の方々のご協力によるバス待ち空間「バスの駅」の設置(10箇所)

#### (3) 安全運行の推進

- ア 車両ヘッドライトのLED化等による夜間視認性の向上
- イ 全運転士が参加するグループワーク重視の安全運転研修の実施
- ウ 有事故件数数のさらなる削減(27年度:90件→28年度:84件) ※10万km当たり 27年度:0.288件→28年度:0.266件(△7.8%)

#### (4) お客サービス拡充等

- ア 上質度・西京地区の均一運賃区間拡大(28年3月実施)
- イ IC定期券及びICカードによる乗継割引の導入(28年4月運用開始)
- ウ 更新車両(43両)は混雑緩和のためのラッシュ型車とし、車内の案内モニターを中央部に増設

### 3 財政状況 (前年度決算からの増減)

区分	27年度決算(A)	28年度決算(B)	差引増△減(B-A)
収 入 計	204 07	209 83	5 76
うち運送収益	194 06	199 55	5 49
うち業外収益	3 71	2 25	△1 46
うち一般会計補助金	1 04	1	△1 03
うち長期前受金収入	2 16	1 83	△33
収入計	207 78	212 08	4 30
支 出 計	181 83	183 01	1 18
うち経常人件費	88 83	70 37	△1 54
うち退職給付引当金繰入額	3 01	3 81	80
うち経費管理の委託料・燃料費・修繕費等	93 76	93 52	△24
うち減価償却費等	16 23	15 31	△92
うち業外費用	2 14	2 20	6
支出計	183 97	185 21	1 24
差 引	23 81	26 87	3 06
特 別 差 引	0	0	0
再 差 引 (純 損 益)	23 81	26 87	3 06
利 益 剰 余 金	34 39	61 26	26 87
(うち予定外増減)	10 58	34 39	23 81
収 入	12 58	5 77	△6 81
うち企業債	10 17	4 81	△5 36
うち補助金	93	53	△40
支 出	28 04	34 35	6 31
うち建設改良費	16 53	21 86	5 33
うち企業債償還	9 51	12 49	2 98
うち差引	△15 46	△25 58	△10 12
資 金 剰 余 金 額	29 65	41 72	12 07
年度末企業債残高	61 49	53 81	△7 68

※ 予定外増減3,439百万円は、28年度に活用する1,050百万円(29年9月に85分譲案を提出予定)及び29年度に活用する2,381百万円(30年9月に85分譲案を提出予定)である。

### 高速鉄道事業

#### 1 決算概要

- 1日当たりのお客数は、経営健全化計画に掲げた5万人増客目標を2年前倒しで達成
  - ・ 「地下鉄5万人増客推進本部」の体制による全庁を挙げた取組の推進や市民の皆様のご理解とご協力の下、オール京都で推進している公共交通優先の「歩くまち・京都」の取組の推進などにより、平成27年度の32万7千人から5万人増の37万9千人となり、経営健全化計画に掲げた平成30年度の5万人増客目標を2年前倒しで達成。運送収益は前年度比5億円の増収(日乗:3万5千人)
- 経常損益は、16億円の黒字
  - ・ 開業した昭和56年度以来の黒字となった前年度に引き続き、2年連続で黒字を計上(一般会計からの補助金2.6億円を含む)
- 全国地下鉄唯一の健全化団体からの脱却へ展望は見えつつも、依然、厳しい経営状況
  - ・ 平成28年度は財政健全化法に定める資金不足はないが、平成29年度に一般会計補助金収入が減少し、資金不足比率は経営健全化基準の20%を上回ることが見込まれるため、安定的に20%を下回る見通しが立つまで、経営健全化団体を継続
  - ・ 企業債等残高が3,764億円、累積資金不足も309億円にのぼり依然、厳しい経営状況

#### (1) 経常損益の状況



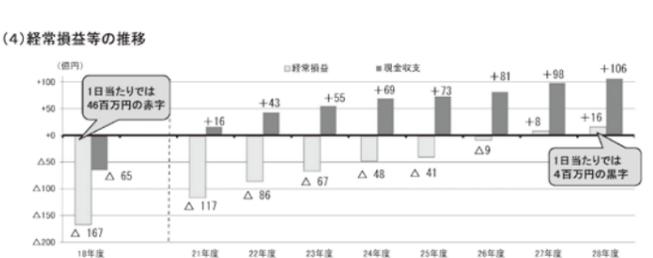
#### (2) 決算の主要数値

	27年度	28年度	差引増△減
在籍車両数	222両	222両	-
走行キロ数(1日平均)	57.0千km	57.1千km	0.1千km
経常損益	8億円	16億円	8億円
経常損益(償却前増減)	98億円	106億円	8億円
資金不足比率	-	-	-
年度末企業債残高	3,911億円	3,764億円	△147億円
累積資金不足	309億円	309億円	-

#### (3) お客数の推移

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
お客種数	327	330	334	339	348	359	372	379
対前年度増加数	-	3	4	5	9	11	13	7

#### (4) 経常損益等の推移



### 2 主要事項

#### (1) お客増加策

- 5万人増客目標を2年前倒しで達成(1日当たりのお客数37.9千人)
- 「地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、全庁を挙げた取組の推進
- 地下鉄開業35周年・国際会館50周年記念合同イベント(28年7月)をはじめとした駅周辺の集客イベントの開催
- などの404件のお客増加策

#### (2) 駅ナカビジネスの積極的展開

- 「コチカ京都」の増床拡充(28年3月開業)など
- 年間収入額9億5700万円(前年度比76万円増)

#### (3) 安全対策等

- ア 高丸線ホーム踏への注意喚起ラインの設置(可動未設置の12駅)
- イ 京都府視覚障害者協会や京都ライトハウス、民間鉄道事業者等との共同啓発活動の実施(四条駅、京都駅等)

#### (4) お客サービスの向上

- ア ICカード利用の環境整備(IC定期券及びICカードによる乗継割引の導入や全改札機ICカード対応完了など)
- イ 無人改札口へのIC対応型多機能インターホンの設置(京都駅、西条駅、29年3月)
- ウ 京都駅のエレベーター(南改札口)の増設やトイレのリニューアルなど

#### (5) 一般会計からの支援

経営健全化対策出資金の受け入れ(59億円)

### 3 財政状況 (前年度決算からの増減)

区分	27年度決算(A)	28年度決算(B)	差引増△減(B-A)
収 入 計	268 97	274 07	5 10
うち運送収益	245 22	249 60	4 38
うち業外収益	63 70	60 16	△3 54
うち一般会計補助金	29 39	26 45	△2 94
うち長期前受金収入	33 74	33 25	△49
収入計	332 67	334 23	1 56
支 出 計	246 48	249 42	2 94
うち経常人件費	50 01	51 52	1 51
うち退職給付引当金繰入額	41	2 46	2 05
うち経費(動力費・修繕費等)	69 55	69 02	△53
うち減価償却費等	126 51	126 42	△9
うち業外費用	77 71	68 73	△8 98
支出計	324 19	318 15	△6 04
差 引	8 48	16 08	7 60
現金収入	97 51	105 88	8 37
特 別 差 引	0	0	0
再 差 引 (純 損 益)	8 48	16 08	7 60
△ 累積 欠 損 金	△3,093 22	△3,077 14	16 08
収 入	286 00	256 42	△29 58
うち健全化対策出資金	72 73	58 78	△13 95
支 出	392 89	367 28	△25 61
うち建設改良費	103 58	90 56	△13 02
うち企業債償還	264 36	251 17	△13 19
差 引	△106 89	△110 86	△3 97
△ 累積 資 金 不 足 額	△309 18	△309 18	0
資 金 不 足 比 率	-	-	-
年度末企業債残高	3,910 69	3,763 84	△146 85



発行所 京都交通労働組合  
京都市中京区壬生坊城町48  
TEL075-841-0948 FAX075-811-3536  
定価 一部10円  
本紙の購読料は組合費に含まれています  
毎月1日発行  
発行者 瀬戸高志  
編集者 梅田涼

- ・ 団体交渉報告
- ・ クロスワードパズル解答
- ・ 自治労都市公共交通評議会第4回研究会報告
- ・ 平和フォーラム報告
- ・ 烏丸線乗務支部レクリエーション報告
- ・ 平成29年度第1弾文化事業報告



### クロスワードパズル 京交736号解答

⓪ オルティツシモ  
イ ビツリシロ  
ル ボウエイミ  
ハムズカサ  
イ プラムマリ  
モウラレシト  
ニマイメシウ  
ドンチョウ

■ 答えは「プロフェッサー」  
当選者氏名 (敬称略)  
室谷 和彦さん (電整支部)  
森山 修さん (烏丸支部)  
木下 貴嗣さん (烏丸支部)

# 自治労都市公共交通評議会 第4回研集会報告

## 交通局運営方針及び現業職場職員の健康管理について学んだ!

二〇一七年七月二十五日(火)ANAクラウンプラザホテル京都で七〇人が参加し、研集会が開催された。主催者として、瀬戸高志議長(京交執行委員長)が①九州地方の大雨災害について②国会集中審議について述べられた後、大阪市営地下鉄の民営化について触れられ、京都においても危惧するとし、今後の都市交評運動について説明を行い挨拶に立った。来賓には自治労京都府本部から谷口富士夫副執行委員長が臨席され都市交評研集会の成功を祈念された。研集会では二つの講演が用意され、一部では京都市交通局山本登志一次長が「平成二十九年度交通局運営方針について」をテーマに経営の現状と課題や増収・増客の取り組みについて講演が行われた。観光客の増加などにより、旅客数は順調としながらも、地下鉄事業の累積資金不足や市バス事業の車両更新の費用など安堵出来ない状況であるとして、地下鉄・市バス合わせて一日八〇万人の目標に向け取り組みを進めると締めくくられた。二部では、京都予防医学センターから阿部圭子保健師が「現業職場に従事する職員の健康管理について」をテーマに睡眠と集中力の因果関係や一日のアルコール適量など、アンケートを行いながら、体験型の講演がされ、労働者の三分一を超える交代勤務について不規則な生活習慣で引き起こしやすい病気の予防について学んだ。研究会終了後は懇親会が開催され参加者で意見交換を行いながら懇親を深めた。最後に草川美佳京交青年女性委員長の発声で都市交評の発展を祈念しガンバロウ三唱を行い研集会が閉会した。



講演をされた阿部圭子保健師



講演をされた山本登志一次長  
京都市交通局次長



挨拶に立つ瀬戸高志議長  
(京交執行委員長)

# 平和フォーラム報告 ~72年目を迎えた広島祈りの日~

「原爆の日」を迎えた八月六日は、広島に原爆が投下されてから七十二年目を迎え、「ヒバクシャ」の願いを込めた核兵器禁止条約が国連で採択されて初めての祈りの日となりました。京都平和フォーラムは、八月四日〜六日にかけて、被爆七十二周年原水爆禁止大会・広島大会に六名で参加しました。参加者は、初日の午後折鶴平和行進に参加し、全国から集まった単産・単組代表およそ三〇〇〇人と共に平和への願いを共有しました。その後、広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)で開催される総会に臨みました。二日目は、市内十八会場で開催される様々なテーマが用意された分科会に参加し、広島のみならず、日本国内、強いては世界規模の課題について議論が交わされました。三日目は、広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)で開催される「まとめ集会」に参加し、三日間の日程を終えました。地元報道では、六日の平和祈念式典で平和宣言を読み上げる松井広島市長に触れ、「核保有国と非保有国との橋渡しに本気で取り組みたい」と述べたことに注目し、日本が条約締結促進を目指すべきなどの談話が寄せられていました。この一年で亡くなったたり、死亡が確認された原爆死没者名簿記載者数 五五三〇人、これまでに記載された人の数 三〇万八七二五人



# 烏丸線乗務支部 レクリエーション活動報告



二〇一七年七月二十八日(金)河原町三条にあるROUND1でレクリエーション活動としてボウリング大会を開催しました。勤務終了後や非番、公休など、沢山の方に参加して頂きました。ゲームは、五チームのチーム対抗戦とし、田中支部長の始球式を合図にスタートとなりました。チーム戦の形をとったことで、乗務支部へ来たばかりの若い組合員や、普段は係わりが少なかった組合員同士もすぐに打ち解け合っている、大いに盛り上がりましました。また、その後に行われた懇親会では、仕事上での不安や、職場での過ごし方、組合活動に対することなど意見交換を行い、大変有意義な時間となりました。これからもこのような結束力が高まるレクリエーション活動を積極的にを行い、さらなる団結力の拡大と強化に取り組みでいきたいと思っております。



# 平成29年度 第1弾文化体育事業報告

## \* ひえひえ王国「水の迷路」で夏休みの涼を満喫! \*



二〇一七年八月十九日(土)・二〇日(日)の二日間第一弾文化体育事業の大秦映画村文化体験が実施されました。快晴の空の下、両日合わせて三二五人が参加し、映画村のアトラクションで文化体験をしながら家族と一緒に、夏休みの楽しい思い出を作りました。今回も夏休み期間中に開催されている「ひえひえ王国」や「水の迷路」をずぶ濡れになりながら体験しました。また、今年新たにオープンした忍者体験など常設のアトラクションと共に参加者は満喫しました。

